

本当の敵

村井 恵子

一月末に催された『館長雇い止め・バックラッシュ裁判を支援しよう！初報告集会』（三井マリ子さんを応援するファイトバックの会主催）で、VOW 今月号編集者の日野玲子さんと久しぶりに偶然お隣同士になった。話の花が咲いて、私もVOWに三井さんについて何か書くことになった次第だ。

ともかくもこれは支援すべきだ、支援しよう、と強く思った気持ちは、私や日野さんや会場を満杯にした活発な関西の女性たちのみならず、現在も日を追って全国各地に飛び火し、三井さんのホームページに連日書き込みがある事は良いことだと思う。この行く末をしっかりと見守り、男女平等の火を絶やさぬよう、逆行は絶対許さぬよう、かつ日本の民主主義自体のためにも（と会場でも声が上がっていた）、彼女の応援をしていきたいと思う。

『ネットワーク関西』の会報（2002年4月号）で、森屋裕子さんが「重大なことを「発見」した。女性議員や女性の運動団体は、ネットも含めて行政や会派内、組織内の男性たちとは渡り合うが、自民党の保守派と一度もまともに渡り合っていないということである…（略）…パイプさえ見つけていない状況なのである」と書かれたことがあった。これを読んだ時私も「女性達でこんなに内容を積み上げてきているというのに、男女平等を嫌う「本当の敵」とは本格的なコミュニケーションも渡り合いもない現状が続くならば、日本は変わらないばかりか悪くなるおそれがある、どうしたらいいのか」と思ったことがあり、森屋さんのこの言葉は印象深く覚えている。

そして今回、この「敵と渡り合う」こと自体をまさにご自分の人生の最大の仕事として、日本で初めて勇気をふるって裁判の場で引き受けられた、それが三井マリ子さんである、と言っても過言ではない。

彼女は、高校教師から都議になり、北欧やEUの男女平等をどしどし紹介され、男女平等オプズマン条例推進や、公的セクハラ施策など、行動力も爽やかさももって、実に頼もしい方である。大学の先輩でもあって（と言っても私はあそんでいた側だが）、個人的にもあこがれを持ってきた人だった。その人がまさか裁判を、と私も思ってもみなかった事であるが、それだけ現在、日本がオカシな状況に傾いているというところがあるわけなのだ。彼女のホームページにある60ページの訴状をぜひ皆様に読んでいただきたい。

北川悟司議員という右翼的議員が豊中市ステップについて「ここは男女共同参画センターですよ、フェミニズムを勉強する場じゃないはずですよ」だの「いっぺん課の方から財団に言うていただいて、無駄なものはないかどうか、本当にこれが市民から望まれている事業なのかどうか、いっぺん原点に戻ってしっかりやっていただきたいと思うんです。それができなかつたら財団を置く必要はないですよ」だの、（まだまだある）なんというゴリ押し。品格も知性もない男女共同参画反対の暴言を言いまくっていることが読み取れる。どんな動きがあったのかが誰にも良くわかる傑出した労作になっている。

幸いにして、WWN（私も参加）の人々の今までの裁判の成果の積み重ねや裁判基金が存在し、大阪の辣腕の素晴らしい女性弁護士諸氏の結集もある。他にも全国から20人もの賛同弁護士氏の応援もあるとのことで、三井さんは頑張って、説得力ある口頭弁論を続けていかれる事と思う。

そしてまた、古くからよく知るWSSJの私達の友人、現館長の桂容子さんも（桂さん、たくさんのストレスにぜひ負けないようがんばってくださいね）、卑劣・組織的なバックラッシュ勢力に対抗できる手だてとしては、三井さん達とぜひ大事な情報など共有し合うなどされて、引き続き本当の男女共同参画のためになややかに逞しく、負けないであっていただきたいと願っている今日この頃だ。

